

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770302008		
法人名	株式会社エコ		
事業所名	グループホームみやま2階		
所在地	福島県郡山市富田町字上ノ台60-13		
自己評価作成日	令和5年9月1日	評価結果市町村受理日	令和5年11月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和5年10月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様や職員が卒にとられず、個人の能力を発揮し伸び伸びと生活・就労ができるようにしている。(外国人就労含む) ・入居者様だけではなく、職員自身も楽しいと思える雰囲気・環境作りに努めている。 ・お互いを家族のような気持ちで思いやり、入居者様や職員同士が想いを打ち明けられる雰囲気づくり、関係性が築けるよう努めている。 ・感染症流行時期にあっても室内外で楽しんで頂けるようアイデアを持ち寄り、創意工夫しながら実行している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は見える位置へ掲示し、毎朝申し送り後に唱和している。 年に一度理念内容について見直しをし、実践の振り返りを行なっている。入職時には新人職員や外国人職員には理念の意味を説明し、理解していただくことで実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症の規制緩和により、推進会議の開催や地区清掃への参加の再開できるようになり、地域の方との交流ができるようになった。 回覧板をまわす際なども、一緒に外出し小さな交流や繋がりも大切にするようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	単独外出時に備え、地域の方や周辺施設に情報開示し、理解を得ながら協力体勢を築いている。また、推進会議再開により、事例等を通して認知症について直接説明をすることで、理解してもらいやすくなった。今後は更に、関わる機会を増やし、多くの地域の方に発信したいと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	会議の再開により、意見や疑問についてのやり取りが直接行えることで、課題についても深く話し合うことができた。 意見やアドバイスには真摯に向き合い、ケアやサービスの質の向上、運営に活かすようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に数回の市役所訪問時や電話にて、担当者へ相談や、実情をお伝えしながら、ご家族の要望に対し一緒に解決する等、協力関係が築けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修を開催し、職員全員が正しく理解できるようにしている。防犯対策以外の施錠はせず、身体拘束につながりそうな時は、会議内等で打開策はないか協議し風通しをよくするようにしている。拘束をしないことで予測されるリスクについては、入居契約時に説明している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	福-1	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修や虐待の芽チェックリストを活用した、振り返りの場を持ち、見過ごされている不適切ケアがないか会議内等で話し合いをしている。研修内容や、ケアについては聞き漏れがないようグループLINEや会議内で周知するようにしている。外国人職員にはしっかりと伝わるよう直接話し、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に研修へ参加を促しているが、忘れてしまう職員もいる。提示研修だけでなく、内部研修の機会を増やし理解を深められるようにする。また、必要に応じてはご家族相手でも、後見人制度の活用を提案する時もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実態調査時や、契約時、改定時には契約内容やホーム内での暮らしについて十分に説明し、できるだけ不安や疑問は解決できるように心がけている。その後、ご理解・納得いただいたうえで締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の関わり合いの中で入居者様のご希望をお聞きしたり、ご家族には電話や面会時に伺っている。また、推進会議内等でもお聞きし、受けた要望や意見はできるだけ反映させケアの向上に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホームは全職員で造るものと考え、会議内や日常のなか、定期的な面談の中で出た職員の意見や提案はできるだけ受容し、ホーム運営やケアの向上ができるようにしている。本社への意見や要望等についても、現場の声としてあげ、運営に反映できるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの個性を大切にしながら、各々役割を持って楽しく生き活きと活躍できるよう配慮している。職員の努力や勤務状況を踏まえ個人評価への反映、給与の見直しをしている。また個々が抱える悩み等にはできるだけ耳を傾け意見を尊重できるよう対応している。		
13	福-2	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に合わせた資格取得のバックアップや、現在ホームでの課題に合わせて内部研修を実施している。また、力量に合わせてケアへのアドバイスやフォローをしたり、未経験への挑戦を促すことで、技術や知識を更に身につけられるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染状況で、内部研修は見送りになる事もあり交流の場は少なかったが、リモート研修には積極的に参加している。また、外国人職員に対しては、数少ない為、フォローアップ研修へ参加を促すことで、他施設の外国人職員との交流を通して、刺激を受けることで質の向上に努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や実態調査時に会話の中で不安なことや困っていること、要望などできるだけ本人の声に耳を傾けお聞きするようにしている。心情を理解し、必要なサービスを見極め本人の気持ちに寄り添うことで安心して生活が送れるように務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や実態調査の際、入居希望に至った経緯や抱えている苦勞・不安、希望について耳を傾けお伺いしている。サービス利用前であっても問題解決へのアドバイス等をしったり誠実に対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	歩行が不安定な方には見守り、不安の多い方には傾聴対応するなど、アセスメントを元に会議内で話し合い、その時に必要と思われる支援内容を決定している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話をしながら一緒に行ったり、様子を観察しながら、本人の能力を見極め残存機能や意思を大切にしている。お互いにホームの一員として協力しながら生活を送っていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	双方の話を聴き、普段の生活の様子を電話や面会時にご家族に伝えている。ご家族の協力を得ながら、本人の支えとなれるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため思うような外出支援は行えていないが、馴染みの方との電話通話や面会があることで関係が続けられている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや行事の時などに入居者様同士で関われるように、席の配置に配慮するなど、良好な関係が築けるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後お話しする機会があった際は、現在の状況を聞きながら、困りごとなどの相談や支援ができるようにすることで、サービス利用が終了しても関係性が保てるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成の前や、普段の生活の中でよく観察し、本人や家族の意向を伺ったりしながらニーズの把握に努めている。意思疎通が困難な場合でも、アセスメントをしっかりと行い、できる限り本人の思いに添えるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族から生活環境について聞き取りをすることで今までの生活歴や馴染みの暮らし方、を把握し、職員間で情報を共有している。馴染みの暮らし方を知ることで、今の生活・これからの生活の材料になるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日一日の生活の中で、どのような事ができてできないのか、体調など心身の様子を観察し、できるだけ快適に過ごしていただけるよう努めている。また、様子観察した中で、残存機能等を把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の暮らしをよく観察し、家族や本人、職員から情報収集しながら、抱える課題についてケース会議等で話し合い、課題解決のため多職種、ホーム外の資源も活用し、本人や家族が安心して過ごせる介護計画作成に努めるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間でグループLINEや介護記録、会議の場などを利用して情報共有をしている。異変や気付いたこと、実践した結果、看護師からのアドバイスなどは細かく記録し、サービスの見直しの際に役立たせている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人と家族との意見の違いがある場合、双方の話を傾聴し、可能な限り応じられるよう支援している。毎日出前してほしいという要望に対しては実現可能か、情報収集し家族等と協議を重ねて本人の希望に添って取り入れた例がある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染対策を取りながら地域の清掃活動等に参加できるようになり、社会との繋がりを持てるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に沿った医療が受けられるようにしている。受診の際は、家族から主治医に本人の状況がきちんと伝わるようにメモなどを準備している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一回、医療連携看護師の訪問により、一人ひとりの体調チェックをしていただき相談や処置の仕方等、アドバイスを受けている。看護師から在宅医師へ状態報告をしていただくことで、適切な受診や日々の体調管理ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には医療機関に対し正確な情報提供を行い、退院時にはサマリーをもとにホームに戻ってからの生活がスムーズになるように、病院関係者と情報交換を密に行い、関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合や、終末期のあり方について本人や家族の意向を確認している。終末期に近づいた際には、再び家族の意向を確認して出来るだけ希望に添えるよう、関係者と連携・協力してチームとして方針を共有しながら支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、入居者様の急変や事故発生に備えて定期的に応急手当の講習、訓練を受け実践できるよう知識を身につけている。また、入居者様も参加していただくことで、有事の際に協力が得られやすくなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の避難方法、有事の際の備蓄品の保管場所など、災害時に備え全員参加の定期訓練を行い、いつでも災害に対応出来るようにしている。地域の方にも協力していただけるように連携を取っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	できることは行なってもらうことで、入居者様の尊厳を保つことにつながっている。入浴や排泄は、羞恥心に配慮しながら声かけや介助を行なっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思を伝えるのが難しい方にも、本人本位になるよう選択肢を提案し、入居者様の希望に沿えるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日をどのように過ごしたいか傾聴し、一階へ行きたい要望があれば、その都度ご案内したり、入居者様の生活リズムを大切に希望に添った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用して散髪をしていただき、身だしなみを整えている。また、本人の希望をお聞きしながら服装を選んでいただきおしゃれできるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	以前は野菜の収穫や、盛り付けなど一緒に行なっていたが、現在重度化により食事準備は一緒に行えていない。畑へお連れし収穫や花の水やりを体調に合わせて行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	おかゆ、刻み、水分にとろみなど、入居者様の状態に合わせた形態で提供し、できるだけおいしさを感じていただくため、口から摂取できるように工夫している。特別に水分量や栄養バランス管理が必要な方については、医療チームに協力を得ながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝前に、声かけや介助で歯磨きをしていただいている。歯科衛生士に定期的にチェックしてもらいアドバイスを受け、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様一人ひとりの排泄パターンや身体能力を把握し、定期的な声掛けや本人の様子から察して、その都度声かけしトイレ案内する事で、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘はできるだけ薬に頼らず、水分をしっかり摂っていただいたり、乳製品を提供するなどし、なるべく自然に排便が促せるよう心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様の様子をよく観察した上で入浴の声かけをしている。拒まれる方にはタイミングをみて再度お声かけするが、無理強いせず、翌日することもある。入浴は、職員のペースではなくご本人がゆっくり楽しめるように配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、眠気の強い様子が見られた時や、年齢的に長時間起きていることで身体に負担になる方は、生活のリズムの中にベッドで休んでいただく時間を作っている。また、日中の休息が不眠につながらないようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日頃の状態をよく観察し、主治医に報告することで、服薬調整につなげている。薬の変更や追加、内服に関する注意事項などスタッフが情報を周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	移動販売でお好きな食べものを購入されたり出前を取るなど、本人の希望に沿う支援をしている。気分転換に別の階へ行ったり、レクリエーションに参加していただけるよう支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染が落ち着いていないため、個別対応の外出はできていないが、その日の気分により、敷地内を散歩したり、中庭に出て、果物や野菜を収穫して楽しんでいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は、現金を所持されている。週一の移動販売の時は、職員が付き添い必要な分だけ購入していただいたり、支払いの際は説明して本人と金額を確認しながら支払っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に合わせ、自身で電話をかけたり、声を聴くことで、利用者の安心につながっている。 ホームでの様子をノートにメモしておき、面会時にお見せしている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに壁面を装飾し、今の季節を感じていただけるように工夫している。また、室温、湿度、明るさにも注意を払い心地よく過ごせる空間づくりに努めている。特に、臭気には注意を払い不快感を感じさせないようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの中にソファ、椅子が設置されており、ひとりでも仲の良い入居者同士でも安心してくつろげるようにし、ソファで横になる方もいたり、自由に過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切に本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	居室には馴染みの家具を置き、使い続けていただいている。また、プレゼントを飾ったり、誕生日カードなどを壁に掲示し、その方らしく暮らせるように支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	過剰介護にならないよう気をつけながら見守りや介助をすることで、一人ひとりが残存機能を活かし、安全に生活できるように支援している。入居者様の行動パターンや身体機能を把握し、危険のない環境づくりに努めている。		